明治六、七年度東京大学医学部学科表

小関恒雄

知ることができる。 ろの学科表は課目、分担者等はわかるが、実際の時間割は不明であり、ようやく明治九年度(一八七六~七七)のものから、 明治四年(一八七一)ミュルレルとホフマンが来日して、東京大学医学部のカリキュラムを設定整備してゆくわけである。(1・3) 初期のこ はじめて

著者はこの度、三宅典次氏の御好意により、それ以前の時間割の一部を拝見できたので、以下紹介する。

(1) 明治六年度夏半期学科表

はない。教師受持学科表もまた同様である。なお、下医(当直医)の時間割まで入っている。(6) げてあるが、本表によればその他に羅丁学(および体操)が入っている。その他の学年でも課目名こそ違え『五十年史』と本表に差異 学五十年史』(以下『五十年史』)では予科二等生(一級、二級)すなわち二等予科生徒(上等、下等)には独逸学、地理学、数学が挙 明治六年度夏半期、すなわち明治七年二月~七月(一八七四)の学科表である。当時は第一大学区医学校と称していた。『東京帝国大

(2) 明治七年度冬半期学科表

史」が加わる。本科は科目が細分化されるものの、基本は(1)と同じである。 明治七年九月~同八年二月(一八七四~七五)の分であり、 校名は東京医学校と改まる。教師陣は⑴と全く同じである。予科に「歴

	表科学期半	夏年七治明校学医区学大壱第京東		1 <u>8.8</u>
日曜土	日曜金日曜木	日曜水 日曜火 日	1曜月 科	予
ドヒ 博 ルル フゲ 氏ン 学	ドヒ 博 ルル 物 フゲ 物 氏ン 学	ドヒ 博 ドヒ 博 ルル 切 物 フゲ 物 フゲ 氏ン 学 氏ン	博 生予一等 物 徒科	自八時
ホ 算 ル ツ 氏 術	ホ 地	ホ 及独 ホ 算 ル 記逸 ル ツ 載作 ツ 氏 文 氏 大	地 理 学 学 - - - - - - - - - - - - - - - - -	時到九時
フン ク 氏 学	フ 独 フ 独 ン 逸 逸 氏 学 氏 学	フ 独 フ 独 ン 逸 カ 逸 氏 学 氏	独 生予一等 选 徒科	自九時到十
ホ 算 ル ツ 氏 術	ホ 地	ホ 及独 ホ 算 ル 記逸 ル ツ 載作 ツ 氏 文 氏 大	地 理 学 学 上 等 下 等 生 徒	到十時
ドヒ 幾 ルル フゲ 氏ン 学	スコ 化 スコ 理 氏ツ ヒ ウ 学 ウ 学	スコ 理 氏ツ ヒ ウ 学 フ 羅 ン 丁 ク 丁 氏ツ 氏ツ ト ウ 学 スコ 氏ツ ト ウ ウ	化 生予一等 学 徒科	自十時到
クフ 学丁羅	クフ 学丁羅 クフ 学丁羅 氏ン 学丁羅	クフ 学丁羅 ツホ 学逸独	学丁羅 上 予二 科等	十一
ツホ 学逸独	フンヒ 氏ドル 学何幾	ツホ 氏ル 学逸独 氏ドル フンヒ 氏ドル ツホ 氏ル	学逸独 下 等 徒	時

スコ 理 氏ッ ゥ 学	スコツヒウ		スツヒウ	代 数 学	スコ氏ツヒウ	代数学	スコ 化 氏ツ ウ 学	スコツヒウ	理学	生活	予一 等 科	自十一
ツホ 学達	免独 氏ドル	レ学 数	ツホ	学逸独	ツホ氏ル	学逸独	フンヒ 氏ドル 学 数 ルゲ	フンドルルク	学 数	上等	予二 科等	時到十二時
クフ 学	丁羅 ヴホ 氏ル	学逸独	クフ氏ン	学丁羅			ツホ 学逸独	ツホ氏ル	学逸独	下等	7 科 生 徒	時
	フンク氏		スツヒウ	代 数 学	フンク氏	羅 丁 学	ドヒル ルルケ アゲン 氏ン	ス氏ロッヒウ	代 数 学	生活	等	自十二時到一時
: a	ホルッ氏	逸	ルツ	独 逸 学		Ą	= 37	3	·	上等	予二 科等 生徒	时到一時
講		静		講		講	alle 114	i i	龍	生	諸	自二時到三時
習		習		習		習	꿤		習	徒	科	時
体		体		体		体	体		体	生	諸	自三時到四時
操		操	1	操		操	操		操	徒	科	到四時

		表科学期半	夏年七治明校学医	区学大壱第京東			
日曜土	日曜金	日曜木	日曜水	日曜火	日曜月	科	本
フ ン ク 氏 学	フンク氏 学	フン ク 氏 学	フンク 氏 学	フンク氏 学	フンク氏 学	生 本一等	自八時
スコ 化 氏ッ ヒ ウ 学	スコ 理 氏ツ ヒ ウ 学	スコ 化 氏ツ ウ 学	スコ 理 氏ツ ヒ ウ 学	スコ 化 氏ツ ヒ ウ 学	スコ 理 氏ツ ヒ ウ 学	生 本二 等 徒 科	, 時到九時
氏ホ 薬 物 学	氏ホ 病 フ 理 マ 学	氏ホ 病 理 ン 学	氏ホ 薬 物 ツ 学	氏ホ 病 フ 理 マ 学	氏ホ 病 フマン ツ 学	生 本一等	自九時到十
ドヒ 用顕 ルル 法 微 アゲ 鏡 氏ン 鏡	ド ル ル フ ゲ 氏 ン 、 学	ドヒ 植 ルル フゲ 氏ン 学	ドヒ 独 ルル フゲ 氏ン 学	ドセ 独 ルル フゲ 氏ン 学	スコ 理 氏ツ ヒ ウ 学	生 本二 等 徒 科	到十時
レミルユ 科 眼	レミ ルユ 病人婦 氏ル	レミロ ロ スカ スカ スカ スカ	レミ ルユ 科 眼 氏ル	レミルユ 術 手	レミ 廻 外 科	医 下	
ンポロ臨内氏で 最 居 科			ンポロ 臨内 氏ブ 義 床 科	ンホロ 臨内 氏 表 旅科	ンポロ 臨内 氏フィ 義 床科	医 下	自十時到
ウコ スツ 学 化 氏ヒ	ンホ 氏フ 学物薬 マ	ンホ 氏フ 学物薬 マ	フンヒ 氏ドル 学物植 ルゲ	ゥュ スツ 学 理 氏ヒ	フンヒ 氏ドル 学物植 ルゲ	生 本一 徒 科等	到十一時
ツデ 氏ニ 学生原	ツデ 氏ニ 学生原 1	ツデ 氏ニ 学生原 	ツデ 氏ニ 学生原 1	ツデ 氏ニ 学生原	ツデ 氏ニ 学生原 1	生 本二 徒 科等	- h4

(114)

			レミ ルユ 科 産 氏ル	レミ ルユ 科 産 氏ル	レミ ルユ 科 産 氏ル	医下	自
ンポファ 路 床 様 床 様	ンポロ臨内氏 表 旅科	ンポロ 臨内 氏 義 床 科	ンポロ 臨内氏で義 床科	ンポロ 臨内氏で義 床科	ンポロ臨内氏プ 義床科	医下	自十一時
レミ ルユ 論傷情 氏ル	氏ル	レミ ルユ 論術手 氏ル	フンヒ 氏ドル 学物植 ルゲ	クフ 学丁羅	クフ 学丁羅	生 本一 徒 科等	時到十二時
ツデ 氏ニ 学生原 1	ツデ 氏ニ 学生原 l	ツデ 氏ニ 学生原 l	ッデ 氏ニ 学生原 l	ツデ 氏ニ 学生原 1	ッデ 氏ニ 学生原 l	生 本二 徒 科等	時
レミルユ 科 戸氏ル	î		レミ ルユ 科 産 氏ル		1	医 下	Ė
						医下	自十二時到
ウコ スツ 学 野 氏ヒ	レミ ルユ 論傷骨 氏ル	レミ ルユ 論術手 氏ル	ウコ スツ 学 化 氏ヒ	レミ ルユ 論傷骨 氏ル	レミ ルユ 論術手 氏ル	生 本一 徒 科等	村到一時
37	ウコ スツ 学 化 氏ヒ		フンヒ 氏ドル 学物植 ルゲ		フンヒ 氏ドル 学物植 ルゲ	生 本二 徒 科等	
講	誹	詩	群	詩	講	生 諸	自二時
習	超	習	習	習首	習	徒 科	自二時到三時
体	体	体	体	体	体	生 諸	自三時
操	操	操	操	操	操	徒 科	自三時到四時

	日曜刀	K		日曜り	K	日	曜	月		2)
等 三	等 二	等 一	等 三	等 二	等 一	等三	等二	等一		2)
	第 ホルッ 術	とルゲンドルフ 学		第 ホルッ 術	とルゲンドルフ 学		算ホルツ術	とルゲンドルフ	八時ョリ九時マテ	
独逸ポルツ語	独逸った。	独逸語	算ポルッ術	独逸語	独逸語	第ポルツ術			九時ヨリ十時マテ	~
独逸語		はいゲンドルフ 学	独逸ホルツ語		博物学	独逸ホルツ		はルゲンドルフ 学	十時ョリ	予
独逸ホルツ語	は 物 学	歴史並地理	独逸ホルツ語	とルゲンドルフ 学	歴史並地理	独逸ホルツ語	セルゲンドルフ	歴史並地理	十一時ヨリ	科生
	独逸フンク	化コツヒウス学		独 カフンク	物理学		独逸フンク	化コツヒウス	十二時ヨリ	生
							体操			

E	日曜日	<u>:</u>	1	3 曜 会	È	1	日曜才	<u> </u>
等 三	等 二	等 一	等 三	等 二	等 一	等 三	等 二	等 一
第ポルツ術		ヒルゲンドルフ 学		第 ホルッ 術	セルゲンドルフ 学		第ポルツ術	ヒルゲンドルフ 学
独逸ホルッ語			第 ホルッ 術			算ポルツ術	独逸ったの語	ヒルゲンドルフ 語
地理ホルッ学	とルゲンドルフ 学	羅甸でいる。	独逸ホルツ語	ヒルゲンドルフ	羅甸マンク語	独逸ホルツ語	ヒルゲンドルフ	羅甸一語
	はいゲンドルフ 学			セルゲンドルフ 学	歴史並地理	独逸ホルツ語	セルゲンドルフ 学	歴史並地理
	羅甸マンク語	物理学		羅甸語	化コツヒウス学		羅甸一部	物理学
							体操	

ŀ	日曜 才	ς .		日曜り	K	Е	曜	月		
等 三	等 二	等 一	等 三	等 二	等 一	等三	等二	等一		
# 17 # 12	顕微鏡解剖学 コーツ	化コツヒウス学		顕微鏡解剖学 海 濱 習			顕微鏡解剖学解 剖 演 習	カ 理 学	本科生	八時ヨリ
化コツヒウス	顕微鏡解剖学 コーツ			顕微鏡解剖学 アニーツ	理呼 ホガッス おおおった。	カ 理 学	顕微鏡解剖学解 剖 演 習		本科生	九時ヨリ
				眼科病床講義					下医	十時ョリ十
独逸作文	顕微鏡解剖学 アニーツ	外科病床講義	独逸作文	顕微鏡解剖学 アニーツ	理呼 ホガスマン 赤カスマン 赤病	独逸作文	顕微鏡解剖学 アニウツ	外科病床講義	本科生	-一時マテ
				産科学					下医	十一時ヨリ
解剖理論	化コツヒウス	外科病床講義	解剖理論	物理学	診 察 法	解剖理論	化コツヒウス学	外ミコルレル	本科生	リ十二時マテ
解剖理論		外 科 学	解剖理論	五官生理学	察病実験	解剖理論		外ミコルレル	本科生	十二時ヨリ
							体操		本科生	四三時マラリ

	日曜日	<u>-</u>		日曜る	È		日曜オ	ξ
等:	三 等 二	等 一	等 三	等 二	等 一	等三	等 二	等一
1 to 1	顕微鏡解剖 演習	化学		顕微鏡解剖学 習			顕微鏡解剖学 アニーツ	物理学
物理・学	世 が鏡 に解演 1割		化コツヒウス学	顕微鏡解剖学 習	理呼 ホンカップマン が病	物理学	顕微鏡解剖学 アニーツ	理呼 ボンマン 治病
インツヒウス	世 一	外科病床講義		眼科病床講義			婦人病論	
19			化コツヒウス学	顕微鏡解剖学 アニーツ	理呼 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	代数学	顕微鏡解剖学 アニーツ	理呼 ボン 治器 ン 術病
				産科学				
	物理学	外科学	解剖理論	物理学	診察法	解剖理論	物理学	診察スツン
		外科学	解剖理論	五官生理学	察病実験	解剖理論	五官生理学	察病実験
							体	
	5-7	6					操	

Ŷ												
(3)								明	治	八	年	夏
		_	予 等	科 -	生			=	予 等	科	生	
	月	火	水	木	金	土	月	火	水	木	金	土
自	独		独	博	化	独		拉	独	拉	独	拉
自八時至九時	フンク氏学		フ フ ン ク 氏学	カンク氏学	コツヒウス氏	フンク氏学		ランケ 氏学	ラン ケ 氏学	フ ラン ケ 氏学	ラン ケ 氏学	フ フ ン ク 氏学
自九時至十時	ヒルケントルフ氏	理コツヒース氏学	ヒルケンドルフ氏	数セントレル氏	化同		幾 セントレル氏	ヒルケントルフ氏	独同乙氏学	理学楷梯	ヒルケントルフ氏	独るファケ氏
自	独	独	化	数	歴	独	幾	幾	算	独	幾	独
自十時至十一時	フン ク 氏学	フン ク 氏学	コツヒウス氏学	同 氏学	フンク氏史	フンク氏学	セントレル氏学	セントレル氏学	セントレル氏術	ラン ケ 氏学	セントレル氏学	同乙氏学
自土	歴	歴	理	歴	拉.	数	算	算	ヒ理ル	算	算	14
自十一時至十二時	フンク氏史	フンク氏史	同氏学	フンク氏史	同丁氏学	セントレル氏学	同氏術	同氏術	ゲントルフ氏 増	セントレル氏術	セントレル氏	
自十二時至一時	数セントレル氏	拉 フンク氏	セルケントルフ氏	拉 丁 グ氏	はルケントルフ氏	理コツヒウス氏学	独るファケ氏		拉 ランケ氏	独るファケ氏		
自一時至二時								8				

						表	課	学	期	半
	上		소			生	科	予 等	Ξ	
土	木	水	火	月	土	金	木	水	火	月
				2					ヒ幾 ル ケ	算セ
						l'	セントレル氏	セントレル氏	ケントルフ氏学	ントレル氏術
				1 1 2			独			地
- 5.00					セントレル氏	セントレ		同理	_ラ 乙 ン	ラ型 ン
					算セントレル氏術	とルケントルフ氏	はルケントルフ氏		独乙	
ary 1			T ₁ .		独ラン	博物 「 「	独ること	独同乙	独同乙	独同乙
3.5		21 -			ケ 氏学	氏学	氏学	氏学	氏学	氏学
4.3.				2 ,		地理フンク氏学				

(120) 472

夏	年	八	治	明								
	生	科	本 等	=			生	科ス	本 等	_		
土	金	木	水	火	月	土	金	木	水	火	月	
四化	1 11		四化	. T	五植	一病	一神	一病	一神	一病	一神	自
コツヒウス氏学			コツヒウス氏学		ヒルケントル学	ウエルニヒ氏 部	ウエルニヒ氏 論	ウエルニヒ氏 部	ウエルニヒ氏 論	ウエルニヒ氏部	ウエルニヒ氏 論	八時至九時
四化	一外	一外	四化	一外	一外	内	内	内	内	内	内	自
同氏学	シェルチェ氏	シェルチェ氏	同	シェルチェ氏	シェルチェ氏	科臨床講義	科臨床講義	科臨床講義	科臨床講義	科臨床講義	科臨床講義	自九時至十時
	病	病	五. 植	病	病	一外	一眼	一外	一外	一眼	一外	自
	ウエルニヒ氏	ウエルニヒ氏	ヒルケントル	ウエルニヒ氏	ウエルニヒ氏	シェルチェ氏	シエルチエ氏	シェルニヒ氏	シェルチェ氏	シエルチエ氏	シェルチェ氏	一十時至十一時
四コツヒウス氏学	三組トエニーツ氏	三 トエニーツ氏		三トエニーツ氏	比較解剖	外科臨床講義	外科臨床講義	外科臨床講義	外科臨床講義	外科臨床講義	外科臨床講義	自十一時至十二時
	組同織氏学	比較同解氏剖	四コッヒウス氏	三組同織氏学	三比較同解氏剖		四 コツヒウス氏					自十二時至一時
												自一時至二時

1								表	課	学	期	半
三組織学演習 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2		士	学	薬	製			生	科	本 等	≡	
************************************	土	金	木	水	火	月	土	金	木	水	火	月
大学 2 2 2 2 2 2 2 2 2	34-1						三神	五博	三組	五博	四理	三組
大ル学 大ル学 大ル学 大ル学 大ル学 大ル学 大ル学 大ル 数 セントレル氏 数 セントレル氏 数 セントレル氏 数 セントレル氏 2 2 2 2 2 2 2 2 2	.63							フヒ氏ル物	ト織ニ学	フヒ氏ル物	コット	ト織ニ学
三組 三組 第字 演習 三組 第字 演習 三組 第字 演習 三和 第字 演習 三十 二十 2 2 2 2 2 2 2 2 2							1	ント	消滅	h	ス	〕演
## (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4					41.	<u> </u>	氏学	ル学	氏習	ル学	氏学	氏習
エニーツ氏 大 大 大 大 大 大 大 大 大					- 1		八独	八独		数	三組	三組
三組 四化 五十 一型 フレルケットル・カー・ア・ル・カー・ア・ル・カー・ア・ル・カー・ア・ル・カー・ア・ル・カー・ア・ル・カー・ア・ル・カー・ア・カー・ア							ン	ンク	同学演	ントレル	エ織ニーツ	エニー演
1						Fi	氏学	氏学	氏習	氏学	氏学	氏習
エニ織 コッピウス氏学 大学	-				. 4		三組	四理	四化	八独	四化	五十
三組 四理 四化 三胎 五博 五博 五博 五博 五博 フセ氏ル物 一次 大生 上土 上 上 上 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大生 上土 上 上 上 上						Ť	エ織ーツ	ツヒウス	ツヒウス	ンク	ツヒウス	氏ルケント
日離 日離 日 日 日 日 日 日 日					1 100							
Table Ta			- 3			10	二組	四埋				五.博
大学						Ĥ	同織	同	ツヒ	产生	氏ル物	同物
センン ト セント ト セントト ト レ レ レ ル ル ル ル ル ル ル ル ル ル ル ル ル ル ル						1	氏学	氏学	ス	ツ	}	氏学
トトレレルル					144 (6)		数	数		三胎	数	
							トレル	ントレル		エニ生	ントレル	

(3) 明治七年度夏半期学科表

ミュルレルに代りシュルツェ(外科系)、ホフマンに代りウェルニヒ(内科系)となる。 明治八年二月~同年七月(一八七五)の時間表である。予科はホルツが去り、ランゲ、セントレル(シェンデル)が加わる。本科は

いまのところ、③に続く明治八年度分は管見しえないが、前述のごとく明治九年度分からは印刷配布されている。(5)

以上をまとめて、予科を含めこれら御雇医学教師を、原綴、生没年、滞在雇傭期間、(雇傭先)の順に羅列する。生国はいずれもド

ホフマン (Theodor Eduard Hoffmann, 1837~1894)、一八七一~七五(七一~七四医学部、七四~七五宮内省) ジュルレル (Benjamin Carl Leopold Müller, 1822?~1893)、一八七一~七五(七一~七四医学部、七四~七五宮内省)

ホルツ (Viktor Holtz, 1846~ ?)、一八七一~七五(七一~七三南校、七三~七五医学部)

ヒルゲンドルフ (Friedrich Franz Martin Hilgendorf, 1839~1904)、一八七三~七六 コッヒウス (Hermann Cochius, 1837~?)、一八七三~七六

フンク (Hermann Funk, 1844~ ?)、一八七三~七六

デーニッツ(Friedrich Karl Wilhelm Dönitz, 1838~1912)、一八七三~八五(七三~七六医学部、七六~七九警視庁、七九~八 五佐賀病院

ウェルニヒ (Albrecht Ludwig Agathon Wernich, 1843~1896)、 | 八七四~七六

ランゲ (Rudolf Lange, 1850~?)、一八七四~八二 (七四~八一医学部)

ショルシェ (Emil August Wilhelm Schultze, 1840~1924)、 | 八七四~八 |

ェンデル (Leopold Schendel, 1847~ ?)、一八七五~八二

シ

おわりに

ができようか。 が、他は筆書であるから、あるいは草案(予定表)かもしれない。いずれも骨子は『五十年史』所載の学科表と同様である 以上、 これらを一覧すると、ミュルレルらが目論んだカリキュラム(予科三年、本科五年)が着々と実行に移されてゆく経過を読取ること 不完全ながら明治七、 八年当時の東大医学部の時間割を 紹介した。 うち明治六年度夏半期のものは 印刷 (活版) されてある

文献および註

- (1) 石橋長英・小川鼎三 『お雇い外国人 (9)医学』、鹿島出版会、一九六九。
- 3 2 ミュルレル、石橋長英・小川鼎三・今井正(訳)『東京―医学』、日本国際医学協会、 小関恒雄 御雇教師ミュルレルとホフマン、日本医史学雑誌、二九巻、三号、一九八三。 一九七五
- (4) 『東京帝国大学五十年史』上冊、東京帝国大学、一九三二。
- 5 6 たとえば、「東京大学医学部第四年報」(一八七八) 以降年度の各年報 ちなみに、同期の「外国教師受持学課」を羅列する。フンク(独逸学、羅甸学)、ホルツ(独逸学、地理学、数学)、ヒルゲン
- ドルフ(独逸学、顕微鏡用法論、医家植物学、植物学)、コッヒウス(理化学)、 病理各論及療法)、ミュルレル(切断論、死体手術法、骨傷論、脱臼論) デーニッツ (人身究理学)、 ホフマン(薬物
- 7 『五十年史』には、外科、眼科の受持をミュルレルと記してあるが、 これはシュルツェとすべきであろう。 は彼の持上りの学年に行ったのだろう。 は宮内庁に転じてからも空き時間に、明治八年三月まで講義をしたという。シュルツェと分担しあったが、たぶんミュルレル ただしミュルレル

(新潟大学医学部)